

Bantreay Srei 訪問調査記録

[訪問日時]

2019年11月4日(月) 10:00 – 12:00

[場所]

Bantreay Srei 本部(145 Preah Ang Yukanthor Street (19), Phnom Penh)

[先方]

Teang Chantara (Program Manager)

[当方]

ジェンキンソン陽、田中直、堀尾孝子

[内容]

○設立経緯

オーストラリアの NGO、International Women's Development Agency (IWDA)が、1985年にカンボジアでの活動を開始。その活動組織が、2000年に、カンボジアの NGO、Banteay Srei として、同国政府に登録・認可された。(Banteay Srei は、シバ神を信奉するカンボジアのヒンズー寺院の名称)

○活動と組織

コミュニティベースの持続可能な開発や、ジェンダー平等に関するアドボカシー活動を通じて、カンボジアの女性のエンパワーメント、政治的・経済的・社会的地位の向上をめざして活動している。

これまでに、Siem Reap、Batangbang、Preah Vihear の3州の60の住民組織に対して、農産物販売の支援、ジェンダー平等に関する研修・キャンペーン、飲み水の供給支援、貯金の促進等を行っている。裨益者は、最近の実績で年間1,500名程度(他に間接的裨益者約6,000名)。その3分の2は女性である。農産物販売の支援では、農民と企業の間を仲介し、両者が対等な立場で取引できるように支援している。

現在、26名のフルタイムスタッフが活動しており、うち5名が本部に勤務している。財政規模は、2018年で70万ドル、2019年で46万ドル程度であり、上記のIWDAやUN Womanなどから資金提供を受けている。

(ディスカッション)

APEXの排水処理技術等の紹介をした。カンボジアでは、排水処理はまだあまり行わ

れていない模様で、特にシェムリアップなどでは水質汚濁が深刻だそうで、必要性は高そうであった。ただ、それ以上は議論が深まらなかった。

(感想)

- ・農産物販売の支援活動などで、生産技術や加工技術の改善・支援など、もう少し技術的な話を聞きたかったが、アドボカシー中心で、技術的コミットメントはそれほど高くない印象であった。(田中)
- ・CBOs(community based organizations)を中心として活動を行い、サポート役にまわっているところに好感が持てた。セーフハウス（各事務所に設置）の取り組みも、数は少ないものの、素晴らしいと思った。(ジェンキンソン)



Bantreay Srei 事務所訪問